

平成 28 年度 調剤医療費の動向に関する調査分析

平成 30 年 4 月

IT 推進部データ分析推進グループ

【調査の概要】

本調査は、平成 27 年度及び平成 28 年度同一の 1,206 組合における「調剤」電算処理レセプトデータをもとに、調剤医療費や後発医薬品の使用状況等について対前年度比(伸び率)等をもとに平成 28 年度の調剤医療費の動向を考察したものです。

調査対象とした組合数及び加入者数、調剤医療費合計並びにレセプト件数は以下の通りです。なお、本調査における数値は、全組合の集計値ではなく、対象組合数が限定されていることから、必ずしも組合全体を正確に反映したものではなく、偏りが生じている可能性があることにご留意ください。

	組合数	加入者数(人)	医療費(円)	レセプト件数(件)
平成 27 年度	1,206 組合	26,058,987	806,393,753,190	94,345,175
平成 28 年度	(同一組合)	26,289,283	797,357,794,520	97,000,502

【調査結果のポイント】

- 調剤医療費と伸び率：
平成 28 年度の 1,206 組合における調剤医療費は約 7,974 億円で、対前年度比(以下、伸び率という)は▲1.1%となっている(p.3)。
- 1 人当たり調剤医療費と伸び率：
平成 28 年度の 1 人当たり調剤医療費は 3 万 330 円で、伸び率は▲2.0%となっている。年齢階層別に 1 人当たり調剤医療費をみると、年齢階層が上がるにつれて高くなる傾向にあり、70-74 歳:10 万 7,143 円が最も高い(p.4)。
- 処方箋 1 枚当たり医療費と伸び率：
平成 28 年度の処方箋 1 枚当たり医療費は 6,711 円で、伸び率は▲3.0%となっている。年齢階層別に処方箋 1 枚当たり医療費をみると、年齢階層が上がるにつれて高くなる傾向にあり、70-74 歳:1 万 300 円が最も高い(p.8)。
- 後発医薬品の使用割合と対前年度差：
平成 28 年度の後発医薬品の使用割合(数量ベース)は 68.4%で、対前年度差+6.4%となっている。年齢階層別にみると、60-64 歳:71.2%が最も高く、対前年度差では 5-9 歳:+8.1%が最も大きい(p.13-p.15)。

目次

1. 調剤医療費と伸び率	3
2. 調剤レセプト件数と伸び率	3
3. 1人当たり調剤医療費と伸び率	4
4. 年齢階層別にみた1人当たり調剤医療費	4
5. 年齢階層別にみた1人当たり調剤医療費の伸び率	6
6. 処方箋1枚当たり調剤医療費と伸び率	8
7. 年齢階層別処方箋1枚当たり調剤医療費	8
8. 年齢階層別にみた処方箋1枚当たり調剤医療費の伸び率	10
9. 処方箋1枚当たり調剤医療費と伸び率の月別推移	12
10. 後発医薬品の使用割合（数量ベース）と対前年度差	13
11. 年齢階層別にみた後発医薬品の使用割合（数量ベース）	13
12. 年齢階層別にみた後発医薬品の使用割合（数量ベース）の対前年度差	15
用語の定義	17
参考	17

【留意点】

平成28年度の対前年度比(伸び率)については、「平成27年度はC型肝炎治療薬等の抗ウイルス剤の薬剤料の大幅な増加により高い伸びとなったのに対し、平成28年度は診療報酬改定のほか、抗ウイルス剤の薬剤料の大幅な減少等により一時的にマイナスになったと考えられる」ことに留意して見る必要がある(出典:厚生労働省「平成28年度 医療費の動向—MEDIAS—」Press Release 資料より)。

1. 調剤医療費と伸び率

- 平成 28 年度の調剤医療費(1,206 組合。以下、同じ)は約 7,974 億円で、対前年度比(以下、伸び率という)は▲1.1%となっている。
- 本人・家族別にみると、本人:0.6%、家族:▲3.1%となっており、家族はマイナスの伸び率となっている。

調剤医療費と伸び率

1,206 組合	平成 27 年度(円)	平成 28 年度(円)	対前年度比(%)
合計	806,393,753,190	797,357,794,520	▲1.1
本人	437,324,065,250	439,766,308,410	0.6
家族	369,069,687,940	357,591,486,110	▲3.1

2. 調剤レセプト件数と伸び率

- 平成 28 年度の調剤レセプト件数は約 9,700 万件で、伸び率は 2.8%となっている。
- 本人・家族別にみると、本人:4.7%、家族:1.1%となっており、本人の伸び率が高い。

調剤レセプト件数と伸び率

1,206 組合	平成 27 年度(件)	平成 28 年度(件)	対前年度比(%)
合計	94,345,175	97,000,502	2.8
本人	45,281,509	47,411,856	4.7
家族	49,063,666	49,588,646	1.1

3. 1人当たり調剤医療費と伸び率

- 平成28年度の1人当たり調剤医療費は3万330円で、伸び率は▲2.0%となっている。
- 本人・家族別にみると、本人:3万98円(▲1.8%)、家族:3万621円(▲2.2%)となっている。

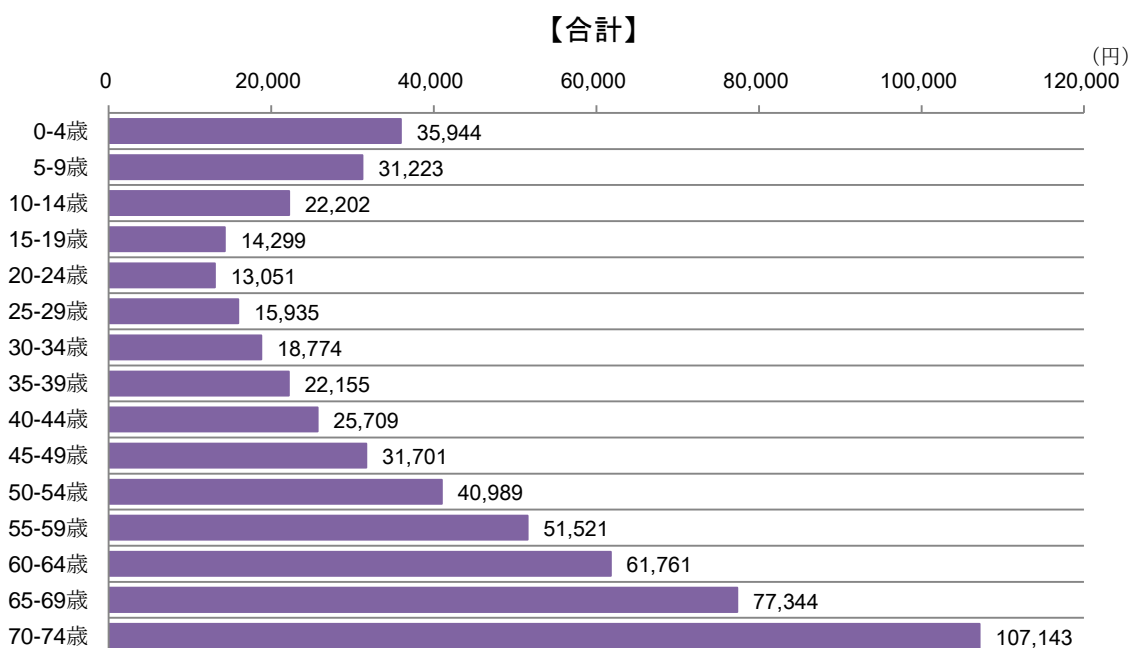
1人当たり調剤医療費と伸び率

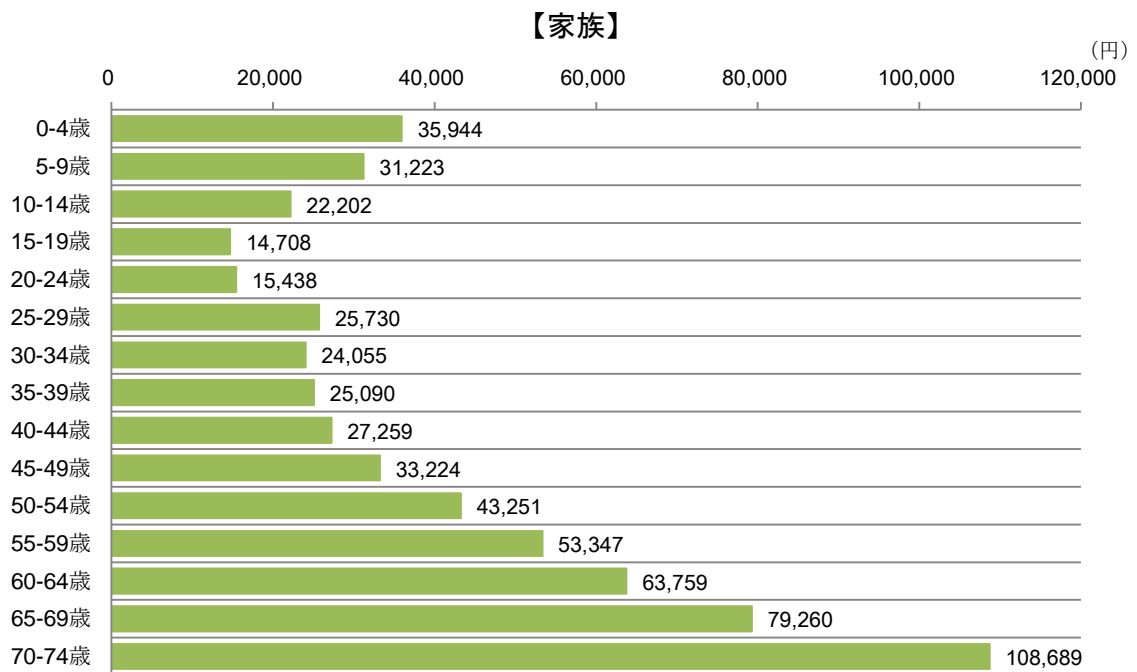
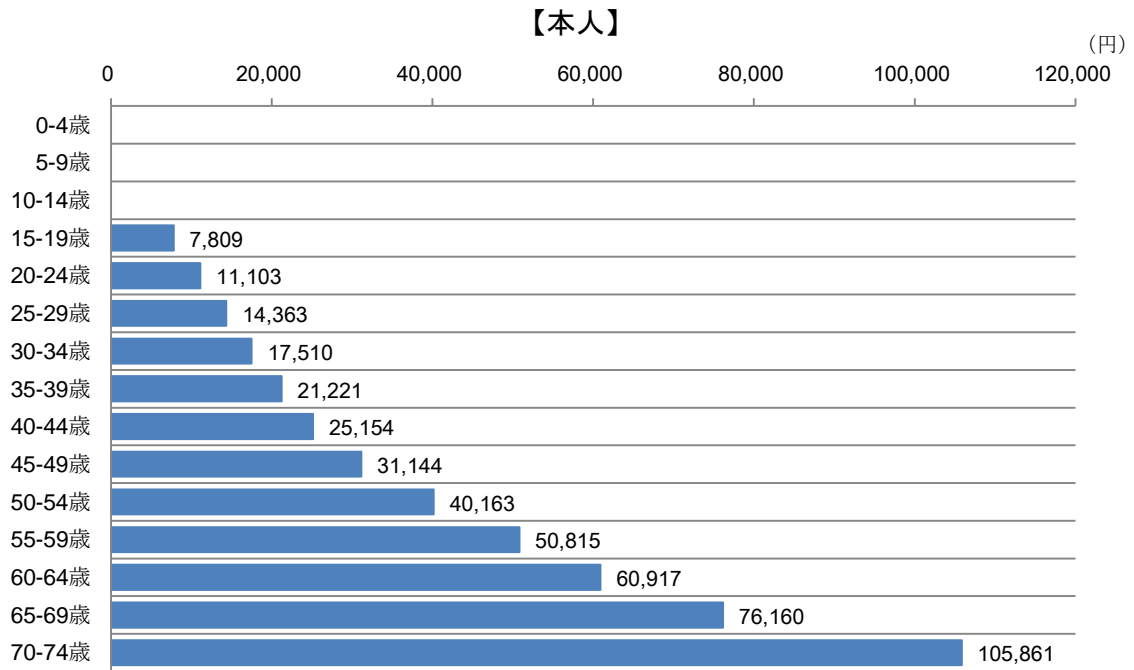
1,206組合	平成27年度(円)	平成28年度(円)	対前年度比(%)
合計	30,945	30,330	▲2.0
本人	30,636	30,098	▲1.8
家族	31,320	30,621	▲2.2

4. 年齢階層別にみた1人当たり調剤医療費

- 年齢階層別に1人当たり調剤医療費をみると、0~14歳で比較的高いほか、以降、年齢階層が上がるにつれて高くなり、70-74歳:10万7,143円、65-69歳:7万7,344円、60-64歳:6万1,761円となっている。
- 本人・家族別にみると(p.5)、どの年齢階層においても家族のほうが高く、本人では年齢階層が上がるにつれて高くなり、70-74歳では10万5,861円と、15-19歳の7,809円の約13.6倍となっている。また、家族では0~14歳が比較的高いほか、以降、年齢階層が上がるにつれて高くなり、70-74歳では10万8,689円と、0-4歳の3万5,944円の約3.0倍となっている。

年齢階層別1人当たり調剤医療費



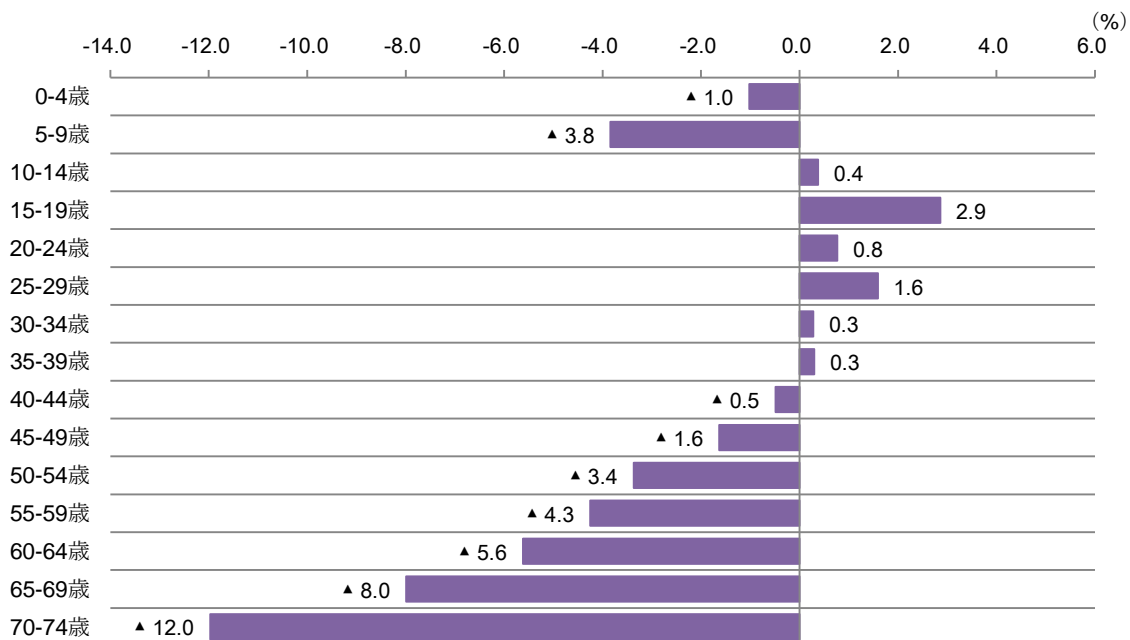


5. 年齢階層別にみた1人当たり調剤医療費の伸び率

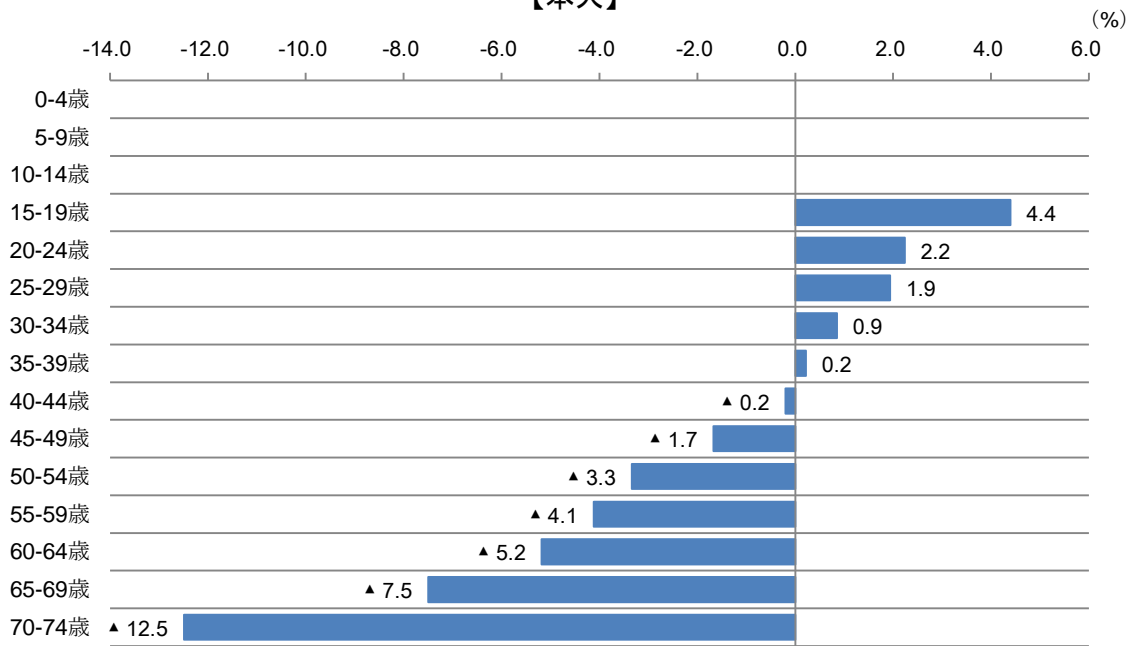
- 年齢階層別に1人当たり調剤医療費の伸び率をみると、プラスの伸び率を示しているのは10~39歳で、15-19歳:2.9%、25-29歳:1.6%、20-24歳:0.8%の順に高く、0~9歳及び40歳以降ではマイナスの伸びとなっている。
- 本人・家族別にみると(p.7)、本人では15~39歳でプラスの伸びを示しており、40歳以降はどの年齢階層においてもマイナスの伸びとなっている。また、家族では10~29歳及び35-39歳でプラスの伸びとなっており、それ以外の年齢階層ではマイナスの伸びとなっている。

年齢階層別1人当たり調剤医療費の伸び率

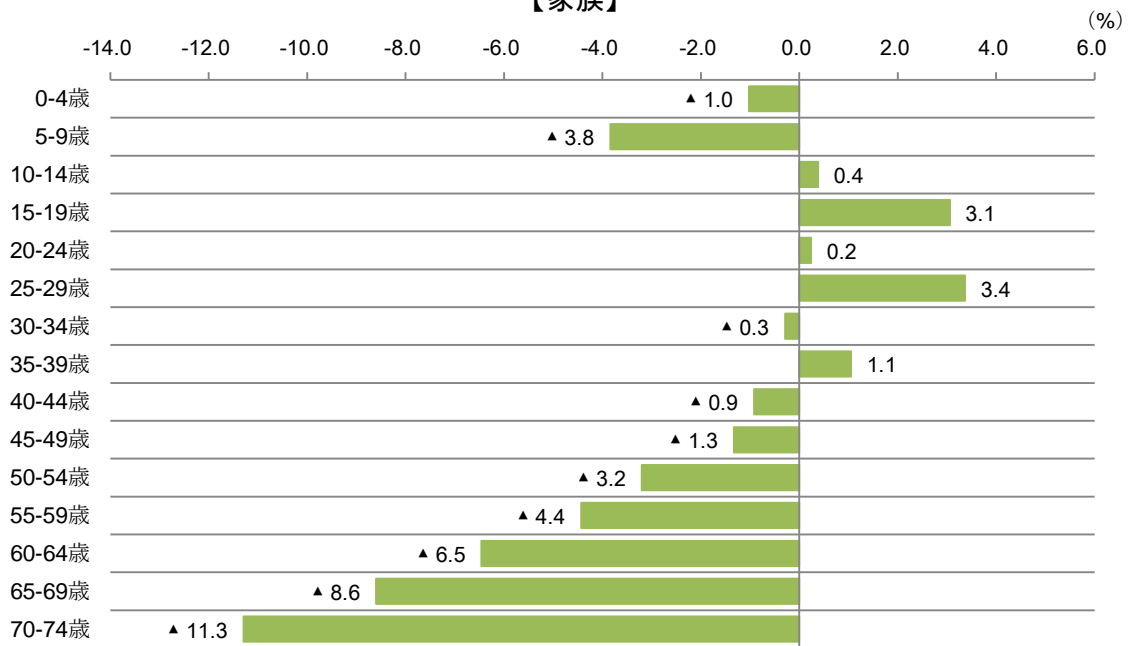
【合計】



【本人】



【家族】



6. 処方箋1枚当たり調剤医療費と伸び率

- 平成28年度の処方箋1枚当たり調剤医療費は6,711円で、伸び率は▲3.0%となっている。
- 本人・家族別にみると、本人:7,930円(▲3.3%)、家族:5,644円(▲3.3%)となっており、本人の処方箋1枚当たり調剤医療費が高い。

処方箋1枚当たり調剤医療費と伸び率

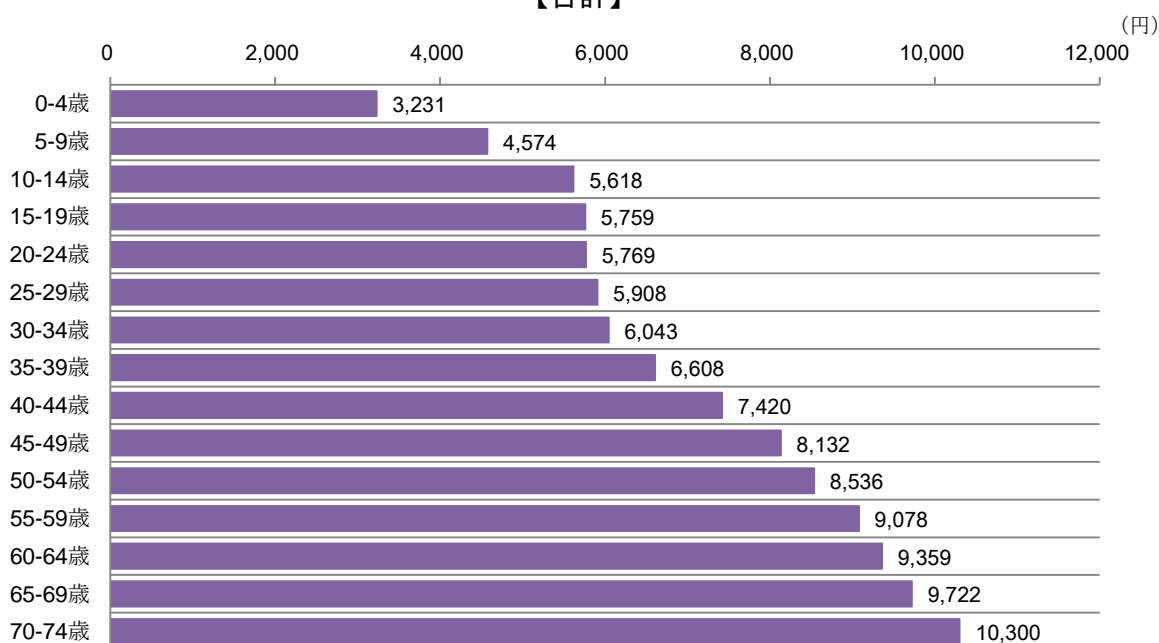
1,206 組合	平成 27 年度(円)	平成 28 年度(円)	対前年度比(%)
合計	6,920	6,711	▲3.0
本人	8,202	7,930	▲3.3
家族	5,838	5,644	▲3.3

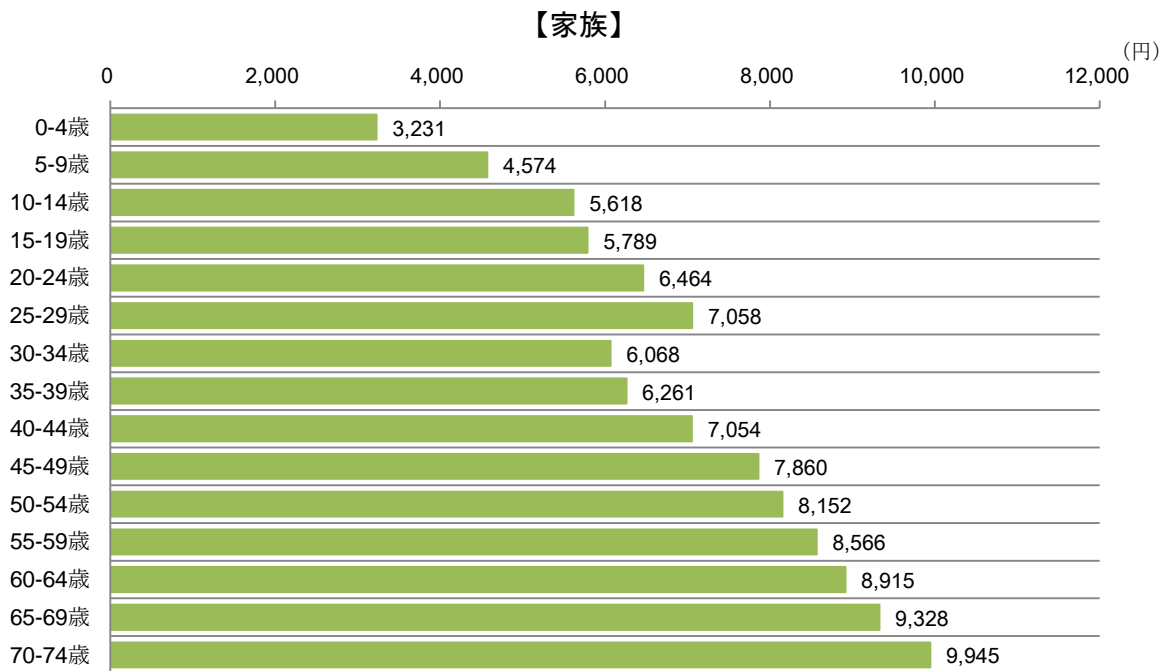
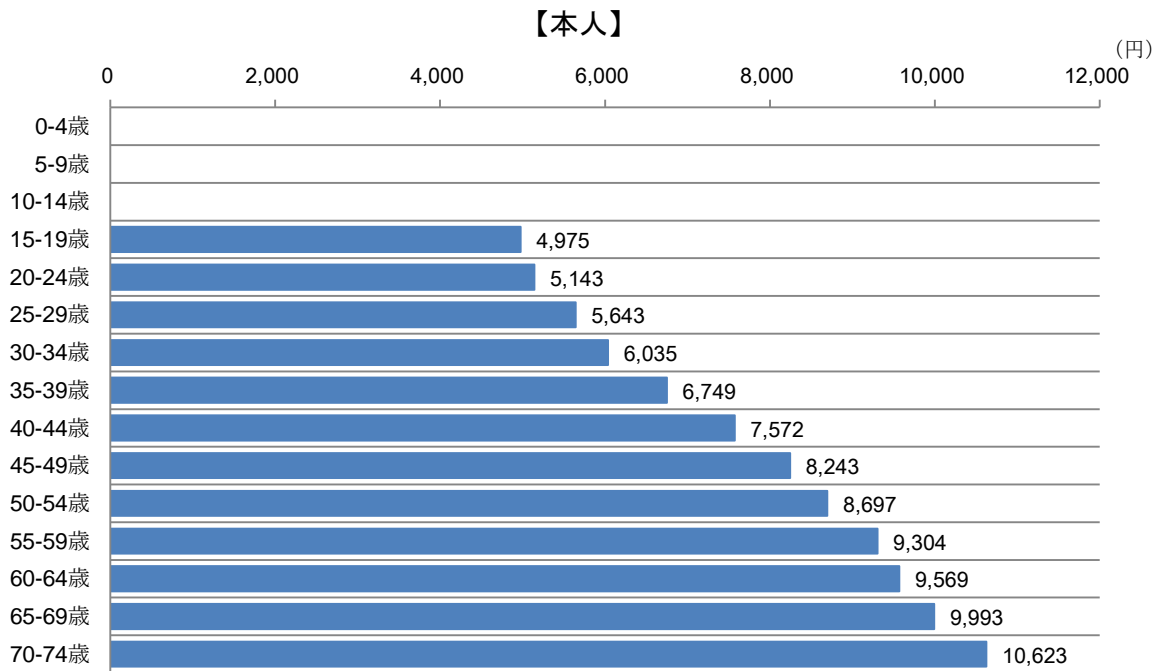
7. 年齢階層別処方箋1枚当たり調剤医療費

- 年齢階層別に処方箋1枚当たり調剤医療費をみると、年齢階層が上がるにつれて高くなっており、70-74歳:1万300円、65-69歳:9,722円、60-64歳:9,359円の順に高い。
- 本人・家族別にみると(p.9)、本人では年齢階層が上がるにつれて高くなり、70-74歳では1万623円と、15-19歳の4,975円の約2.1倍となっている、また、家族では20~29歳で比較的高いほか、それ以外では年齢階層が上がるにつれて高くなり、70-74歳では9,945円と、0-4歳の3,231円の約3.1倍となっている。

年齢階層別処方箋1枚当たり調剤医療費

【合計】



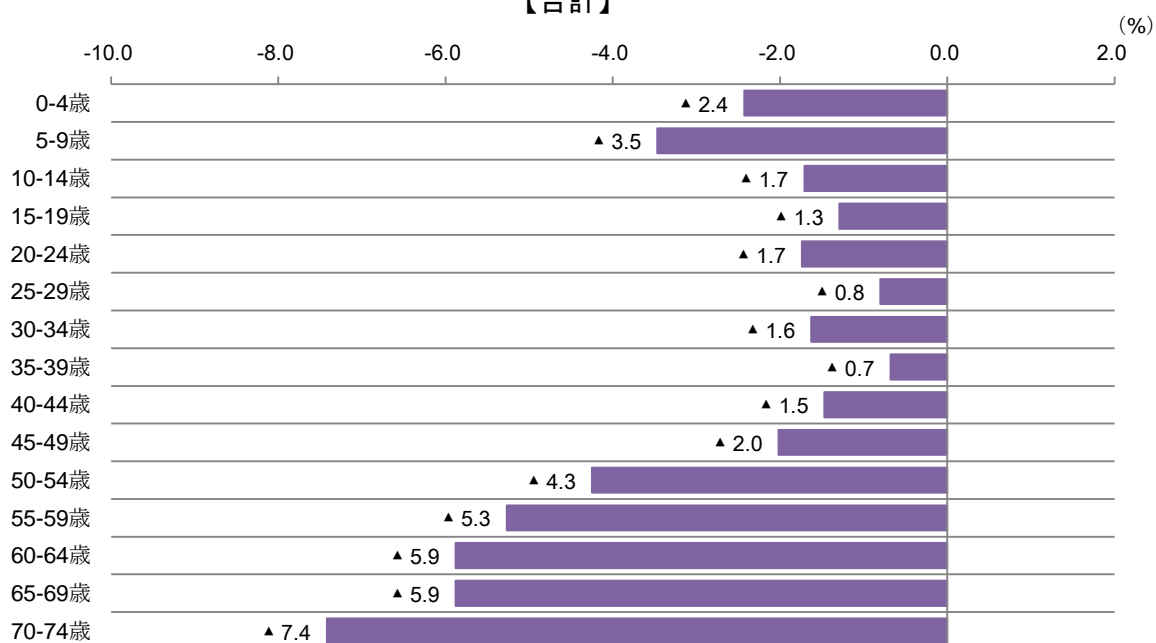


8. 年齢階層別にみた処方箋1枚当たり調剤医療費の伸び率

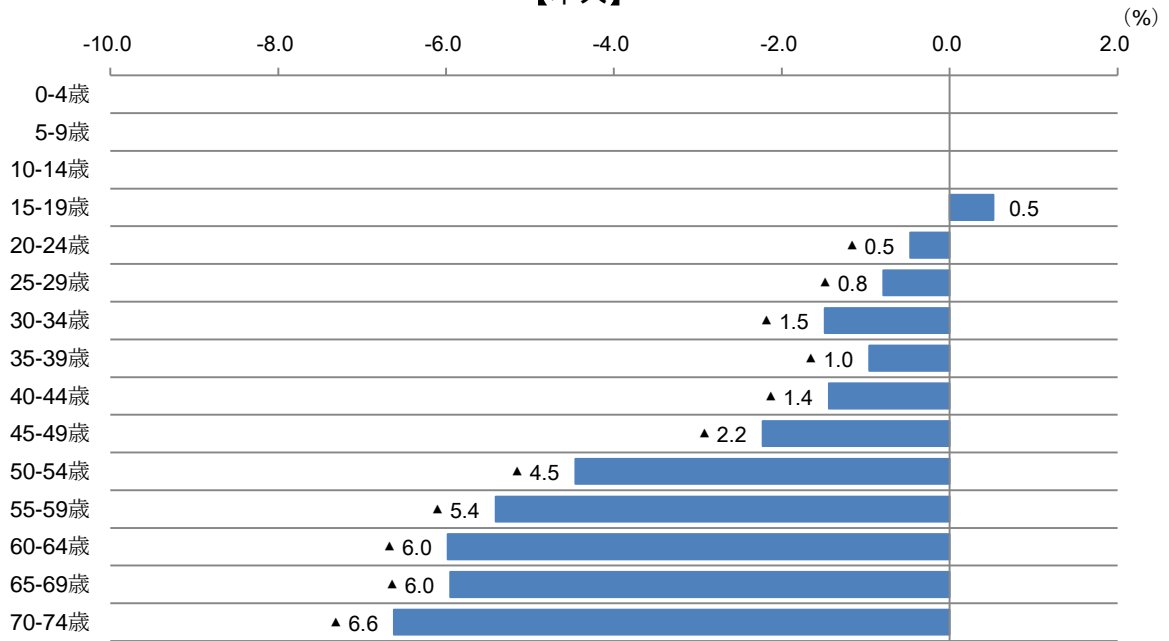
- 年齢階層別に処方箋1枚当たり調剤医療費の伸び率をみると、どの年齢階層においてもマイナスの伸びを示しており、最もマイナスの伸びが高いのは70-74歳：▲7.4%、次いで、60-64歳・65-69歳：▲5.9%、55-59歳：▲5.3%となっている。
- 本人・家族別にみると(p.11)、本人では15-19歳で0.5%、家族では25-29歳で0.3%のプラスの伸びを示している以外は、どの年齢階層においてもマイナスの伸びとなっている。

年齢階層別処方箋1枚当たり調剤医療費の伸び率

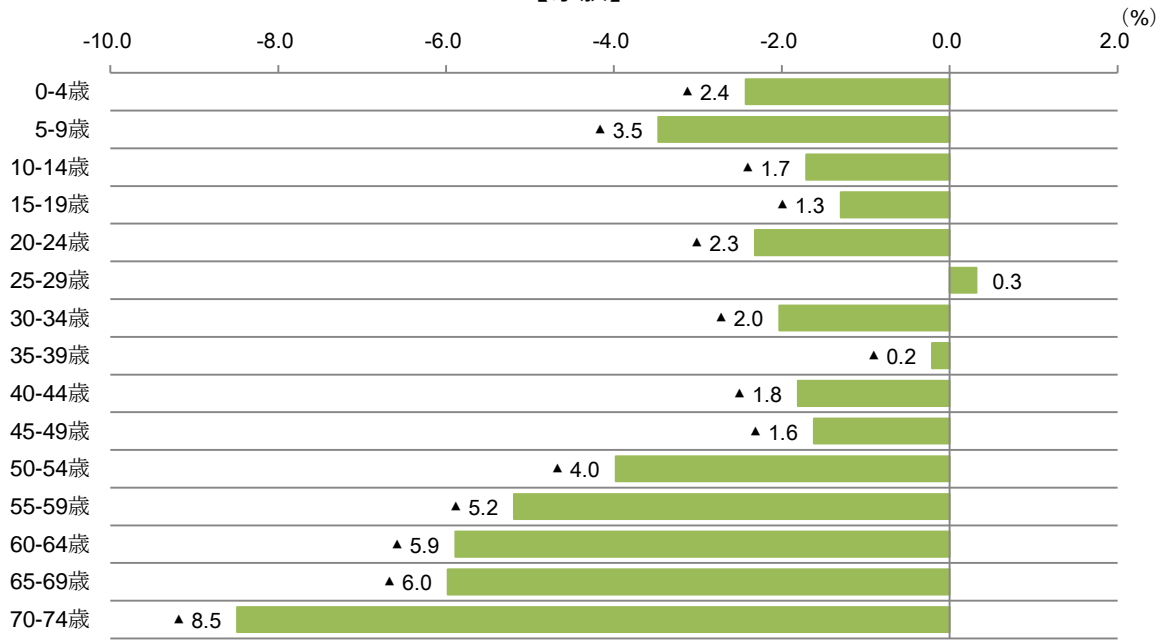
【合計】



【本人】



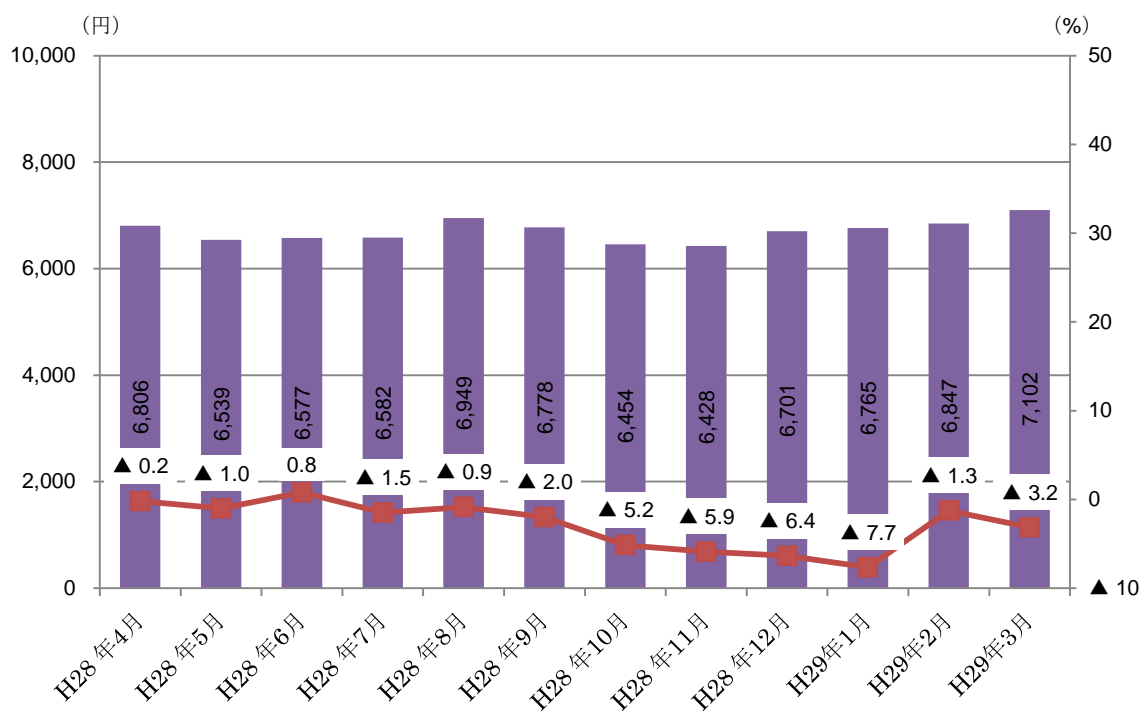
【家族】



9. 処方箋1枚当たり調剤医療費と伸び率の月別推移

- 処方箋1枚当たり調剤医療費の月別推移をみると、3月:7,102円が最も高く、次いで、8月:6,949円、2月:6,847円となっている。
- また、伸び率の推移では、6月:0.8%を除いて、どの月においてもマイナスの伸びとなっている。

処方箋1枚当たり調剤医療費と伸び率の月別推移



10. 後発医薬品の使用割合（数量ベース）と対前年度差

- 平成 28 年度の後発医薬品の使用割合(数量ベース)は 68.4%で、対前年度差+6.4%となっている。
- 本人・家族別にみると、本人:70.9%(対前年度差+6.1%)、家族:65.1%(同+6.6%)となっている。

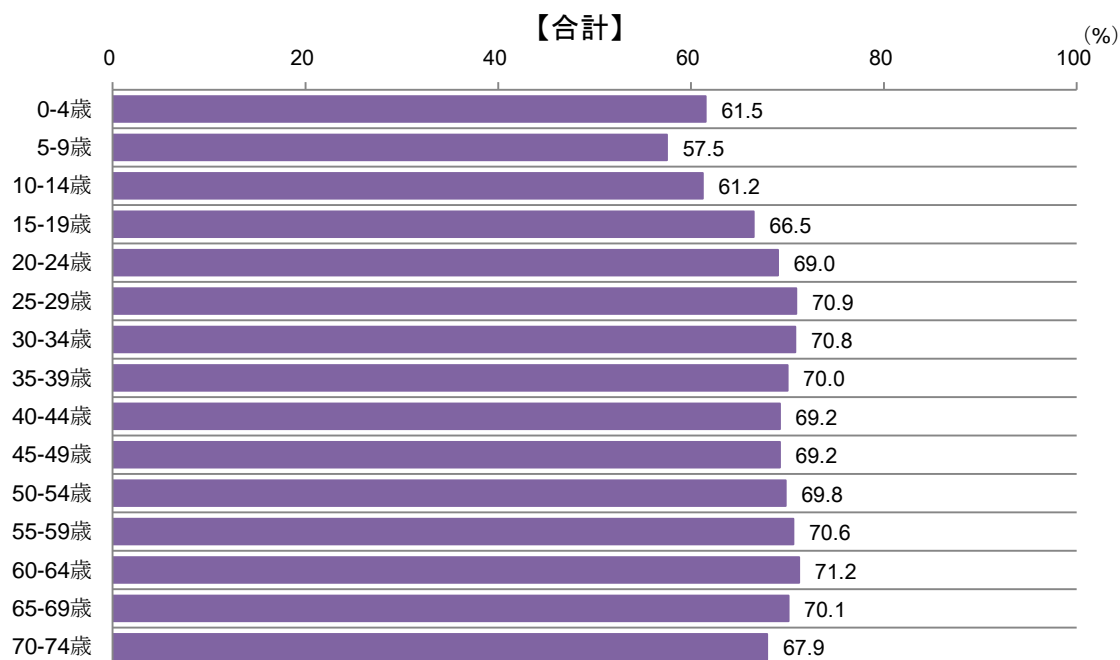
後発医薬品の使用割合と対前年度差

1,206 組合	平成 27 年度(%)	平成 28 年度(%)	対前年度差(%)
合計	62.0	68.4	6.4
本人	64.8	70.9	6.1
家族	58.5	65.1	6.6

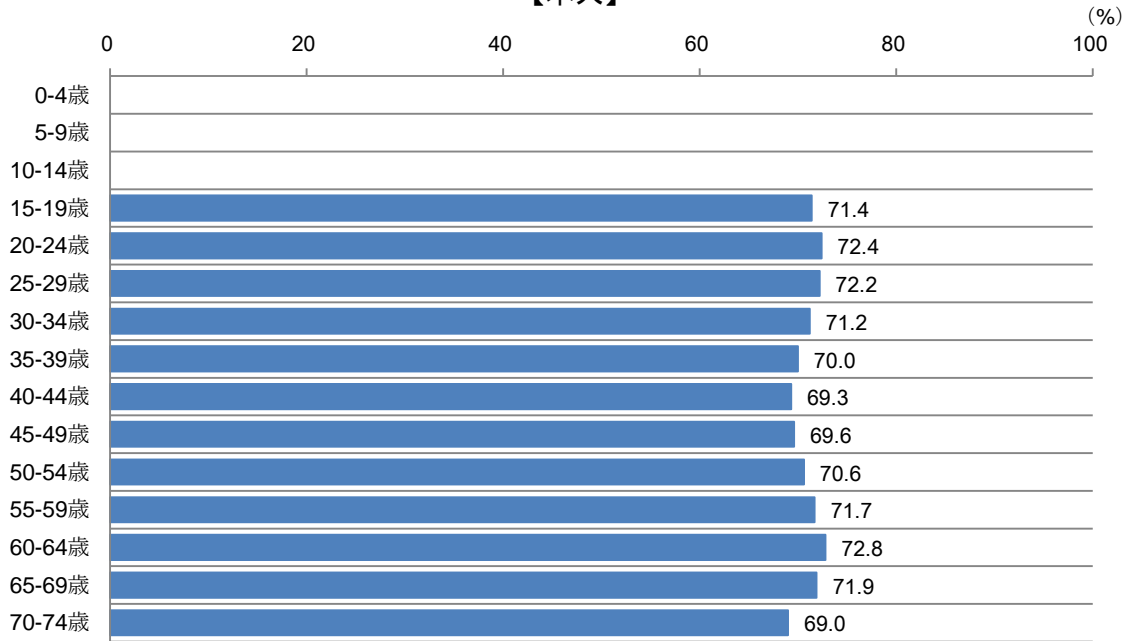
11. 年齢階層別にみた後発医薬品の使用割合（数量ベース）

- 年齢階層別後発医薬品の使用割合(数量ベース)をみると、60-64 歳:71.2%が最も高く、次いで、25-29 歳:70.9%、30-34 歳:70.8%となっている。
- 本人・家族別にみると(p.14)、本人では 20 歳代、60 歳代、家族では 30 歳代で比較的高い傾向となっている。

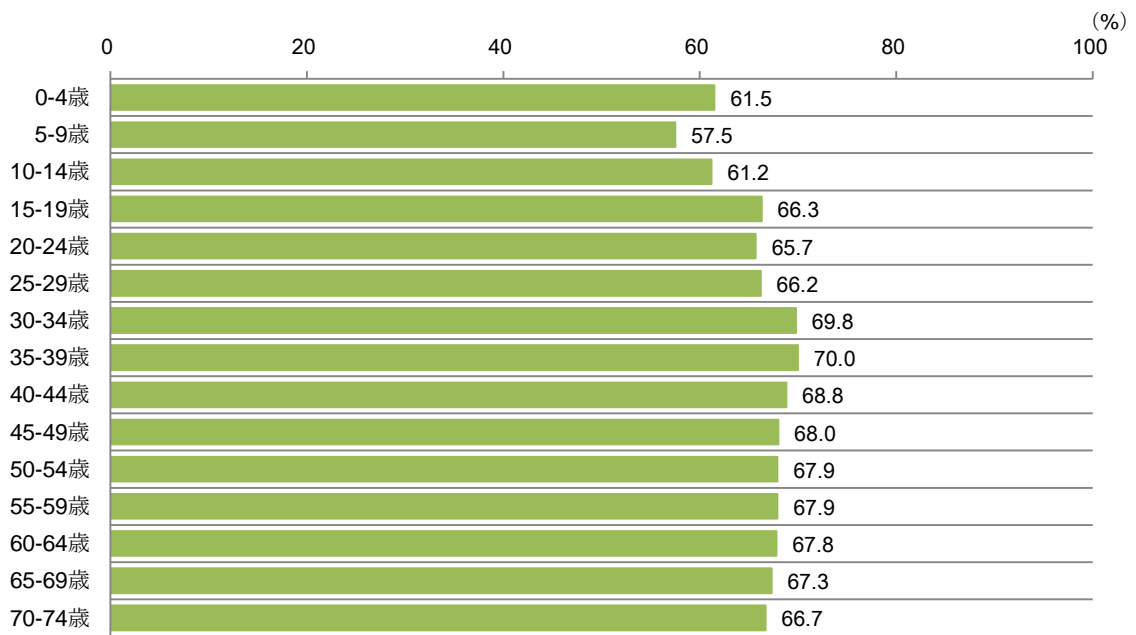
年齢階層別後発医薬品の使用割合（数量ベース）



【本人】



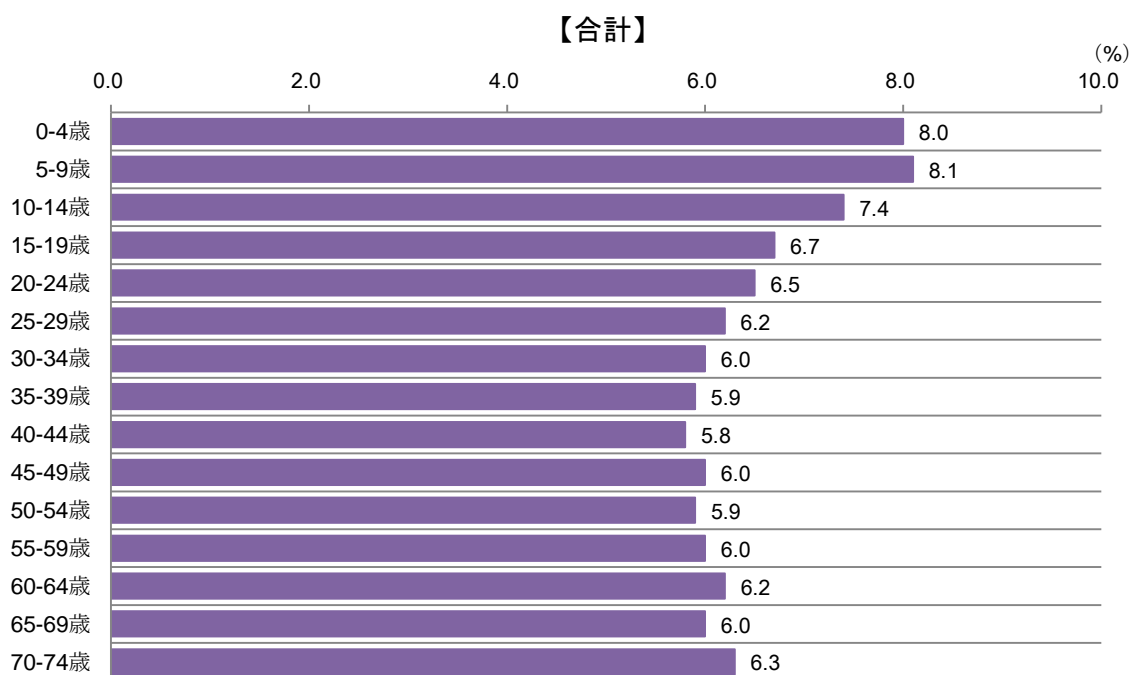
【家族】



12. 年齢階層別にみた後発医薬品の使用割合（数量ベース）の対前年度差¹

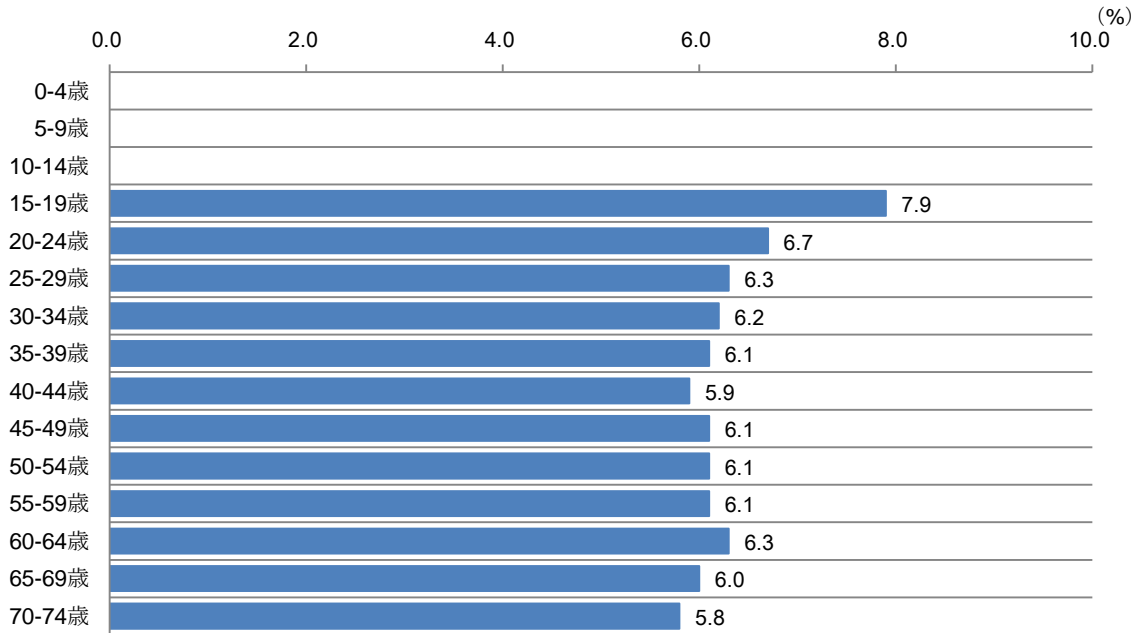
- 年齢階層別に後発医薬品（数量ベース）の使用割合の対前年度差をみると、とくに 0~14 歳で増加しており、5-9 歳:+8.1%、0-4 歳:+8.0%、10-14 歳:+7.4%の順となっている。
- 本人・家族別にみると(p.16)、本人では 15-19 歳:+7.9%が最も大きく、次いで、20-24 歳:+6.7%、25-29 歳・60-64 歳:+6.3%となっている。家族では 5-9 歳:+8.1%が最も大きく、次いで、0-4 歳:+8.0%、10-14 歳:+7.4%となっている。

年齢階層別後発医薬品の使用割合（数量ベース）の対前年度差

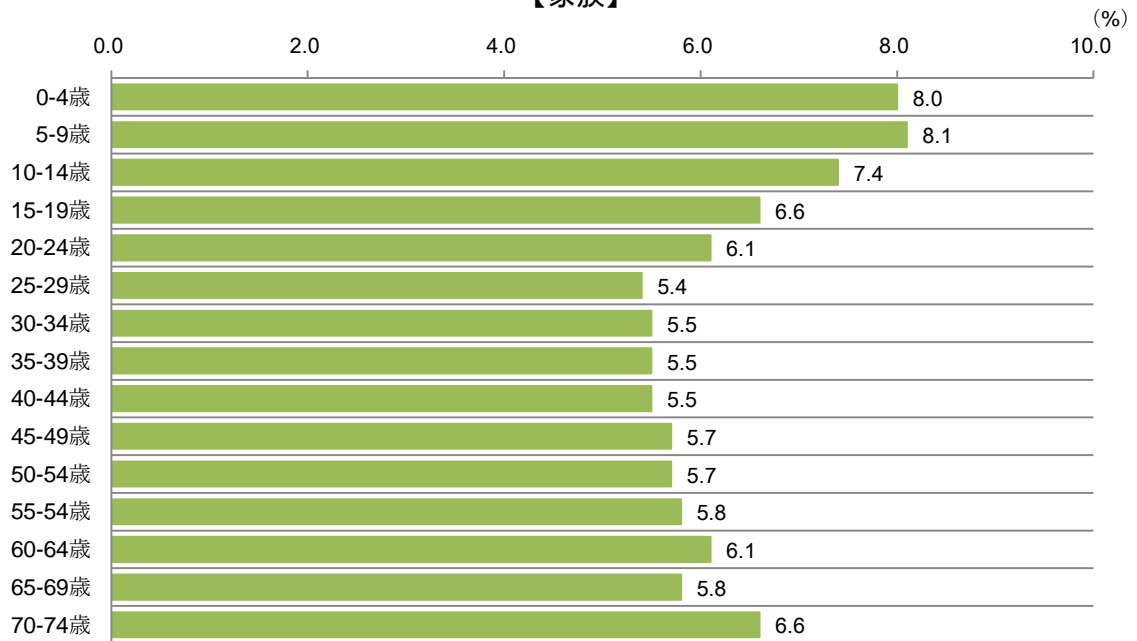


¹ 対前年度差とは、平成 28 年度と平成 27 年度の使用割合 (%) の差である。

【本人】



【家族】



用語の定義

① 調剤医療費：

調剤レセプトの「決定点数」に10円をかけたものである。

② 調剤レセプト件数：

調剤レセプトの件数を指す。

③ 1人当たり調剤医療費：

調剤医療費を加入者数で割ったものである。「本人」の1人当たり調剤医療費であれば、「本人」の医療費を「本人」の加入者数（受診していない者も含む）で割ったものとなる。

④ 処方箋1枚当たり医療費：

調剤医療費の金額をレセプトに記載された処方箋受付回数で除したものである。処方箋1枚につき、どのくらい医療費が発生しているかの指標となる。医療費3要素の「1日当たり医療費」に相当する。

参考

○ 後発医薬品使用割合の算出方法：

後発医薬品の使用割合（数量ベース）は、厚生労働省による定義と同様、以下の算式に基づき算出している。なお、「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。

◇ 後発医薬品使用割合（数量ベース）＝

$$[\text{後発医薬品の数量}] \div ([\text{先発医薬品のある後発医薬品の数量}] + [\text{後発医薬品の数量}])$$

＜例＞コロナールシロップ2%（成分：アセトアミノフェン）を10ml使用した場合
コロナールシロップ2%（薬価基準コード：1141007Q1048）の規格単位は「2%1ml」と定められている。
この場合、使用量10mlを規格単位の1mlで除算し、数量は10となる。

集計対象となる医薬品は、厚生労働省 HP「薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について」（<http://www.mhlw.go.jp/topics/2016/04/tp20160401-01.html>）に掲載された各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報に基づき選出している。